

**第2回三重県環境影響評価委員会小委員会**  
**―桑名広域清掃事業組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価方法書―**  
**調査審議概要**

平成27年8月18日（火）午前10時30分～  
三重県合同ビルG301 会議室

**委員：**自然がいい所で、近くには住宅地があります。桑名市は景観的に素晴らしいいい所で、全国的にも700くらいある都市の中で住みやすい都市ベスト10に過去に2回入っていたと思います。極力注意をいただいて、景観には一層配慮していただきたいです。色彩や形態等に配慮すると書いてありますので、是非それを実行してもらいたいです。

**委員：**（指摘事項に対する事業者見解の）7番の所で、現状把握においては、一番新しい知見で一番新しいデータを使うことを、これからもお願いしたいと思います。

気になるのは、別紙①の中で「ごみ処理施設整備専門委員会」が立ち上げられているようですが、どのような構成で、どのような評価を行って、このように決まったのかもう少し具体的に、これだけでは何故決まったのか分かりにくいので、お聞かせ願いたい。

**事業者：**委員構成については、有識者・学識経験者が2名、あとは構成市町の行政職員が3名、県のかたにも（1名）入っていただいています。あと1人、全国都市清掃会議という清掃業界の専門的な知見を持った協会があり、そちらの技術部長も入っていただいております。選定については計7名の委員で検討いただいています。基本コンセプトがございまして、例えば「安全・安心」「経済性」であるとか、合計100点で、コンセプトに応じて8つの評価項目があり、それぞれ重要度に応じて配点をつけ、7名の委員に個別に採点していただき、その平均点の合計点のいちばん高かったものに決定しています。

**委員：**数字で表されているということですね。2番目との差は何点ぐらいですか。

**事業者：**合計100点が満点なのですが、「ストーカ式+灰の外部資源化委託」が約87点、2位の「流動床式ガス化溶融炉方式」で約64点ですので、23点位差がついています。

**津村委員：**そのようにはっきりと分かるように、もう少し表現を変えていただくとありがたいかと思います。

**委員：**排水はどうなりますか。

**事業者：**プラント系の排水は、全部、内部で処理し、炉内噴霧なり、外へは出さないようにします。ただ、トイレ等の生活系の排水は、浄化槽で処理して放流する計画としています。

**委員：**工事の排水には気をつけてやっていただければと思います。

**委員**：温室効果ガスの所で何かひっかかるんです。何がひっかかるかと言うと、今存在している RDF 発電所が出す CO<sub>2</sub> と、これから造ろうとしている、いちばんいいと評価されているもので比べた答えに見えたのですが、例えば、30 年前の古い太陽光発電があつて、そろそろもう耐用年数が来ているから、今の最新式の石炭発電に切り替えるとしたら、恐らく 30 年前の太陽光発電と比べて、現在最新式の石炭発電の方が間違いなく効率がいいと思います。であるから、太陽光発電は止めて石炭発電に替えるという事をおおっぴらに世の中に宣言したら、非難されます。多分多くの方はそう思います。同じような事を比較でやられているような気がします。お互い最新のもの同士で比べないと、意味がないような比較ではないでしょうか。例が良くないかもしれませんが。

**事業者**：現状との比較というところでさせていただいたのですが。

**委員**：それは RDF の最新式とで比べないと。例えばなぜかと言うと、別紙②の、温室効果ガス排出量は、灯油の使用で 7,259t-CO<sub>2</sub>/年、電気の使用が 2,451t-CO<sub>2</sub>/年というのが現状です。それに対して今度の新施設は灯油の使用が 152t-CO<sub>2</sub>/年と 1/10 以上少ないです。電気の使用も桁が違います。同じように燃やすのに必要であるものが減っているということは、昔の物に対して効率がいいからだと思います。比べるものがわざと悪いものと良いものを比べている気がして、何かいい気がしないです。最新式 RDF のものを仮定したものと、今回のものを比べて、やっぱりいいなというふうにならないと変な気がします。

**事業者**：現状の RDF の灯油の使用量は、RDF の乾燥や脱臭等で、どうしても当組合のごみの量からすると現状の施設では必要となってくるところで、最近 RDF 化施設は建てられていないので最新の（RDF の製造施設の）データというのは難しいところですが、発電所がなくなるだけでも、発電所の RDF の焼却だけでも約 17,000t-CO<sub>2</sub>/年の排出量がありますので、それだけで比較しても減るか。RDF の燃焼の流動床の施設が新しくなって、例えばエネルギー効率が上がって売電量が上がれば、トータルで温室効果ガス排出量は下がると思います。当組合の RDF 化施設と発電所は一心同体、どちらかが止まれば動かないという状況ですので、全体で考えれば、現状を最新の施設として検討して見ても十分新施設の方が低いと思います。

**委員**：桁違いです。それで決まっているようなものではないですか。この桁がちょっと変わっただけで逆転するではないですか。数字を出していただかないと、分からないです。

**事業者**：現在の環境上、これだけ出ている…

**事業者**：まず、RDF 発電所についてですが、データとしては、RDF の焼却量と売電量しか出ていません。実際には発電所の中での燃料・電気使用量があるはずですが、これが明らかになっていないということで、温室効果ガスの排出量としては、現状の RDF 発電所としては、過小評価側となっています。

**委員**：現状としては分かるのですが、現状の施設でなく、今もしも RDF 化施設を造ったとすると、どれ位なのかという見込みの数字と、新施設の見込みの数字を比べないと意味がないかなと。さっきの例で挙げたように、古い太陽光発電と最新の石炭発電所を比べると、

間違いなく石炭発電の方がいいんだと。今ある太陽光発電所は将来 20 年後に終わるのだから、全部石炭発電所に替えましようと言ったら。そういう事だという意見です。

**委員：**堂々巡りになってしまって、私から一言、RDF はカルシウムによって、炭酸ガスの量を引いてないといけない訳です。RDF は、温暖化ガスをカルシウムによって固定化して受けるから少ないからということで導入された訳です。そういう事を指摘されている訳です。ただ、この議論は堂々巡りになってしまいますので、止めたいと思います。ロータリーキルンの評価についても前回言いましたが書いてないです。ロータリーキルンの設備費がかかりますから。事業者としてはもう少し勉強してきて欲しいなという司会者からの要望です。この議事録が公開された時に、県民、市民のかたが納得できるような形で、きちんと事業者は回答してください、ということ司会者から要望しておきます。

**事務局：**欠席の依田委員からの意見を紹介します。「当該区域はすでに人の手が入っており、自然環境としては若干の植樹程度しかないように見える。そのため、この区域に多くの生物が生息しているとは考えにくく、隣接する広大なゴルフ場に比べれば焼却施設そのものが生物に与える影響は少ないだろう。」というのが主な意見です。また、「交通量の増大は重要そうなので、きちんと評価してほしい。」という要望があったのですが、事務局から「交通量の増大については、事業者は、自動車交通騒音を評価するために、交通量調査を行うこととしています。」ということで、方法書 149 ページに書いてありますとご案内しています。「もしこれ以外にも何か評価を行うべきことがあれば御教授ください。」と投げかけましたが、特に依田委員から御返事はありませんでした。